



Peregrine | AssetCenter
リリースノート



© Copyright 2001 Peregrine Systems, Inc.

All rights reserved.

本書に記載されている情報は、Peregrine Systems, Inc.が所有し、Peregrine Systems, Inc.の書面による許可なく使用または開示することはできません。本書の一部または全部を、Peregrine Systems, Inc.の事前の書面による許可なく無断で複製することを禁じます。本書に記載されている商品名は、該当する各社の商標または登録商標です。

Peregrine SystemsおよびAssetCenterは、Peregrine Systems, Inc.の商標です。

本書で説明されているソフトウェアは、Peregrine Systems, Inc.とエンドユーザ間で締結されるライセンス契約に基づいて提供されます。契約の条項に従って、ソフトウェアを使用する必要があります。Peregrine Systems, Inc.は、本書の内容については一切の責任を負いかねます。また、本書の内容が予告なく変更されることもあります。本書の最終バージョンの日付を確認するには、Peregrine Systems, Inc.のカスタマサポートまでお問合せください。

デモ用データベースと本書の例に使用されている団体名および個人名は架空のものであり、本ソフトウェアの使用方法を説明するためのものです。現在、過去を問わず、実在する団体や個人とのいかなる類似もまったくの偶然によるものです。

本書の内容は、ライセンス契約に基づくプログラムのバージョン3.60 sp3に適用されます。

AssetCenter

Peregrine Systems, Inc.
Worldwide Corporate Campus and Executive Briefing Center
3611 Valley Centre Drive San Diego, CA 92130
Tel 800.638.5231 or 858.481.5000
Fax 858.481.1751
www.peregrine.com



はじめに	7
本書の内容	9
I. アプリケーションサービスの管理	11
1. はじめに	13
アプリケーションサービスの概念	13
AssetCenterでの導入	14
2. アプリケーションサービスの画面	15
アプリケーションサービスのリスト	16
アプリケーションサービスの詳細画面	16
基本情報	17
タブページの使用	17
【契約】ボタン	21
3. チュートリアル	23
このアプリケーションサービスの管理	24
アプリケーションサービスに接続	24

技術サポートに電子メールを送信する	24
ワークフローを使ってのユーザーアカウントの管理	24
責任者による管理	25
ワークフローが責任者により実行された更新をユーザーに通知	28
ユーザーアカウントのステータス	28
アプリケーションサービスの賃貸料計算	29
II. 外部アプリケーションの統合とその他の新機能	31
4. 外部アプリケーションの統合とその他の新機能	33
AssetCenter 3.6 SP3で可能な統合	33
InfraTools Remote Control	34
InfraTools Desktop Discovery	34
Knowlix	35
新機能	36
グラフ統計	36
III. このバージョンに関するテクニカルインフォメーション	
.	37
5. 関連マニュアルおよび動作環境	39
関連マニュアル	39
動作環境	39
6. 修正された欠陥および新機能の一覧	41
3.60 SP3バージョン	41
バージョン 3.60 SP2	43
3.60 SP1バージョン	46
バージョン 3.60	47
7. アップグレード時の注意事項	51
AssetCenter 3.xからのアップグレード	51
AssetCenter バージョン2.52からのアップグレード	52
IV. 追加されたフィールドとAssetCenter 3.6での更新	53
8. 追加されたフィールドとAssetCenter 3.6データベース構造での更新	
.	55
A. お問い合わせ先	57

リリースノート | Figureリスト

2.1. アプリケーションサービスの画面	16
2.2. 詳細画面の上部	17
2.3. [全般] タブページ	17
2.4. [条件] タブページ	18
2.5. [従業員] タブページ	19
2.6. 契約の使用状況の詳細画面	19
3.1. 作業フローチャート	25
3.2. [ツール / 進行中の業務] メニューの選択	26
3.3. [アプリケーションサービスを管理する] ボタンの選択	27
3.4. ウィザードの最終報告	27
3.5. 例に挙げられたアプリケーションサービスの [賃貸料] タブページ	29
3.6. 異なったアプリケーションサービスの [賃貸料] タブページ	30

はじめに

AssetCenter 3.60 SP3は、旧バージョンの問題点を修正し、新機能を搭載したアップグレードバージョンです。

本書またはその他のAssetCenterマニュアルに記載されていない最新情報については、AssetCenterのインストール先フォルダに入っている「Readme.txt」ファイルを参照してください。

本書の内容

本書の内容は次の通りです。

- Unixバージョンのインストール方法および使用に関する情報
- 関連マニュアルおよび動作環境
- 改善された問題点および新バージョンに追加された新機能の一覧
- AssetCenter 3.60 SP3へのアップグレード時の注意事項
- 詳細についてのお問い合わせ先

I. アプリケーションサービスの 管理

1 | はじめに

アプリケーションサービスの概念

アプリケーションサービスとは、アプリケーションをローカルにインストールすることなしに企業内での使用を可能にするサービスです。アプリケーションは、イントラネットまたはアプリケーションサービスプロバイダ（ASP）によりホストされ、インターネットを通してアクセスできます。プロバイダは、アプリケーションベンダーとエンドユーザーの仲介者として、購読契約という形でアプリケーションを提供します。

アプリケーションサービスをオンライン利用することにより、メンテナンスやバージョンアップ等が自動化されます。シン・クライアントのWebインターフェースを用い、ユーザーは固有のアカウントを使って、インターネットまたはイントラネットを通してアプリケーションにアクセスすることができます。その結果、企業は生産性の向上を図ることができます。

例 1.1. アプリケーションサービスの例

企業内でのコミュニケーションと情報共有の最適化を望んでいる企業Aを例に挙げてみましょう。ASPはこの要求にすばやく対応することができます。その上、ASPは企業Aのデータを保護する補足サービスも提供します。プロバイダの提供するサービスを検討した後、企業AはプロバイダBと購読契約を交わします。企

業AとプロバイダBは、コスト、支払条件、ユーザーアカウントの管理等といった関連情報を交換します。

AssetCenterでの導入

AssetCenter 3.6では、企業内で使用されているアプリケーションサービスに関連する情報を保存、トラッキングすることが可能です。AssetCenterソフトウェア全体をとおして言えることですが、関連情報に横断的にアクセスできます。

アプリケーションサービスの各レコードは、契約のタイプがライセンスとなっている契約を参照し、またユーザーアカウントともリンクしていて、その情報にアクセスできます。ASP契約は、**[契約]**テーブルに含まれています。ASP契約を管理するには、**[リポジトリ / アプリケーションサービス]**メニューを選択します。

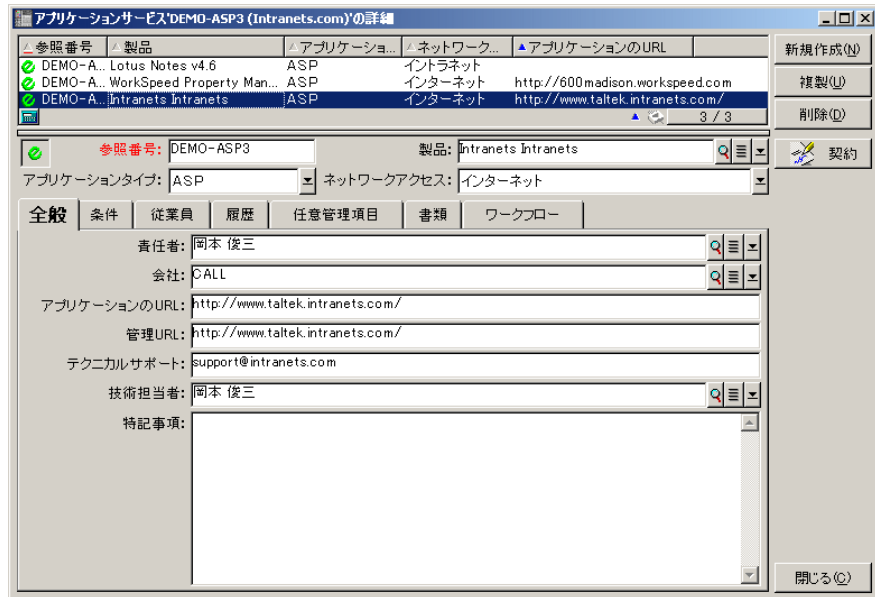
従業員は、ユーザーアカウントの管理において核となる情報なので、従業員の詳細画面に、**[アプリケーションサービス]**タブページが追加されました。これにより、アプリケーションサービスの画面を表示することなく、契約の使用状況の画面にアクセスできます。また、動的データ管理の原理により、アプリケーションサービスに関連するアクションが実行されたり、データベースのフィールド値が直接変更されると、関連データも自動的に変更されます。

2 | アプリケーションサービスの画面

アプリケーションサービスの画面には、アプリケーションサービスに関連する情報が含まれています。[リポジトリ / アプリケーションサービス]メニューを選択してこの画面を表示します。

関連する情報を追加、参照、変更あるいは削除する場合には、この画面で処理します。

図 2.1. アプリケーションサービスの画面



本章では、レコードリストおよび詳細画面について説明します。

アプリケーションサービスのリスト

一番上の行は列見出しで、各レコードが保持しているデータの内容を示します。リストが表示されている時の列見出しの標準構成は次の通りです。

- **【参照番号】**：契約の固有の参照番号
- **【製品】**：契約で指定されているアプリケーションサービス
- **【アプリケーションタイプ】**：アプリケーションサービスのタイプ
- **【ネットワークアクセス】**：アプリケーションサービスで使用するアクセスのタイプ
- **【アプリケーションのURL】**：アプリケーションのネットワーク上でのアドレス

アプリケーションサービスの詳細画面

詳細情報の内容は、選択したアプリケーションサービスに応じて変わります。

基本情報

詳細画面の上部には、選択されたアプリケーションサービスのアイコンと4つのフィールドが常に表示されます。

図 2.2. 詳細画面の上部

- **【参照番号】** (SQL名: Ref) フィールドは、契約番号を指します。このフィールドは必須フィールドです。
- **【アプリケーションタイプ】** (SQL名: seASPTType) フィールドは、アプリケーションのタイプを示します。ドロップダウンリストから選択できる値は次のとおりです。[ASP]、[イントラネット]、[その他]。
- **【製品】** (SQL名: Product) はアプリケーション名を示します。このフィールドは、**【製品】** テーブルのフィールドにリンクされています。
- **【ネットワークアクセス】** (SQL name: seASPAccessType) フィールドは、アプリケーションサービスで使用されるアクセスのタイプを指します。ドロップダウンリストから次の値を選択できます。[インターネット]、[セキュリティで保護されたインターネット]、[その他]。

タブページの使用

[全般] タブページ

このタブページには、選択したアプリケーションサービスに関する基本情報が表示されます。

図 2.3. [全般] タブページ

- **【責任者】**（SQL名:Supervisor）は契約を担当している部門または従業員を示します。このフィールドはリンクフィールドです。
- **【会社】**（SQL名:Company）はアプリケーションサービスプロバイダを示します。このフィールドはリンクフィールドです。
- **【アプリケーションのURL】**（SQL名:ASPConnectionURL）フィールドは、アプリケーションへの接続アドレスを示します。
- **【管理URL】**（SQL名:ASPUserRegURL）フィールドは、ユーザーアカウントの管理アドレスを示します。アプリケーションのURLと管理URLが同一である場合もあります。
- **【テクニカルサポート】**（SQL名:ASPEmail）フィールドは、アプリケーションのテクニカルサポートの連絡先（電子メール、URL等）を示します。
- **【技術担当者】**（SQL名:TechCnct）はアプリケーションサービスの社内での技術担当者を示します。このフィールドはリンクフィールドです。
- **【特記事項】**（SQL名:Comment）フィールドには、アプリケーションサービスに関するコメントを記入します。

【条件】タブページ

【その他の契約条件】（SQL名:Comment）フィールドには、契約に含まれるその他の契約条件を記入します。

図 2.4. 【条件】タブページ

The screenshot shows a software window titled "その他の契約条件:" (Other Contract Conditions). At the top, there are several tabs: "全般" (General), "条件" (Conditions), "従業員" (Employees), "履歴" (History), "任意管理項目" (Optional Management Items), "書類" (Documents), and "ワークフロー" (Workflow). The "条件" tab is selected. Below the tabs is a text input area containing the following text:

```
自動月払い
無制限接続数
契約を随時解消できる
```

【従業員】タブページ

このタブページには、選択したアプリケーションサービスのユーザーのリストが含まれています。

図 2.5. [従業員] タブページ

全般	条件	従業員	履歴	任意管理項目	書類	ワークフロー
△ユーザー		△ログイン	△プロフィール			
Admin		administrator				管理者
木村 敦子		cbernard				運用
川崎 恭子		jbratt				情報システム部
田中 俊夫		joarpenter				情報システム部
佐藤 京介		rclech				営業課
山田 啓介		ecolombo				ファイナンス
岡本 俊三		jclanehoff				情報システム部
倉本 大地		plevky				情報システム部

リストの列見出しは次のとおりです。

- **[ユーザー]** : アプリケーションサービスの使用を許可されている従業員
- **[ログイン]** : アプリケーションサービスへの接続の際にユーザーを識別するための名前
- **[プロフィール]** : アプリケーションサービスの使用時にユーザーが所有する権限を識別する情報

ズームまたは状況依存メニューを使ってリスト内の従業員を選択すると、契約の使用状況の詳細が表示されます。

契約の使用状況の詳細画面

図 2.6. 契約の使用状況の詳細画面

詳細画面の多くと同じように、下記の情報が画面上部に表示されます。

- **【ユーザー】** (SQL名: User) リンクは、アプリケーションサービスの使用を許可されている従業員を示します。
- **【契約】** (SQL名: Contract) リンクは、契約の参照番号および目的を示します。このリンクは読み取り専用です。
- **【タイプ】** (SQL名: seType) フィールドは、契約のタイプを示します。

【全般】 タブページは、選択した従業員によるライセンスの使用状況に関する基本情報を含みます。

【フィールド1】 (SQL名: Field1) フィールドは、カスタマイズ可能なユーザー定義フィールドです。ライセンスの使用状況に関するいかなる情報でも入力できます。情報のタイプに応じてフィールド名を変更してください。

【開始】 (SQL名: dStart) フィールドと **【満了予定日】** (SQL名: dPlannedEnd) フィールドで、アプリケーションサービスのユーザーアカウントの有効期限を指定します。

以下に挙げる2つのフィールドで、ライセンスの対象となるソフトウェアの使用権利を制限します。**【権限】** (SQL名: seAuthorization) フィールドは、契約上でユーザーに権限が許可されているかどうかを示します。ドロップダウンリストの3つのシステムリストデータ値 (**【権限あり】**、**【権限なし】**、**【不明】**) から値を選択できます。ユーザー権利が指定されていない場合は、**【不明】** がデフォルトで選択されます。**【利用数】** (SQL名: lUseCount) フィールドで、ユーザーに割り当てられた契約利用数を入力します。

タブページの下半分の **【ユーザーアカウント】** 領域には、ユーザーアカウントの管理に必要な情報が含まれています。

- **【ログイン】** (SQL名: ASPLogin) フィールドは、アプリケーションサービスへの接続の際にユーザーを識別するためのログインを示します。
- **【プロフィール】** (SQL名: Profile) フィールドは、ユーザーに与えられたプロフィール名を示します。ドロップダウンリストから値を選択することができます。
- **【ステータス】** (SQL名: seStatus) フィールドは、ASPアカウントにオンラインで変更を加えるごとに通知されるユーザーアカウントのステータスを示します。**【更新済み】**、**【更新する】**、**【作成する】** という3つの値がドロップダウンリストにありますが、このフィールドは、AssetCenterにより自動管理されているため、読み取り専用です。

その他のタブページ

他にある4つのタブページは、ソフトウェア内で一貫して同じように使用します。


【履歴】 タブページおよび **【ワークフロー】** タブページに関しては、「データの履歴機能」と「ワークフロー」の章 (マニュアル「リファレンスガイド: AssetCenterの管理および高度な使い方」) を参照してください。**【任意管理項目】** タブページおよび **【書類】** タブページについては、「任意管理項目の使用手法」と「書類と

データベースの関連づけ」の章（リファレンスガイド：マニュアル「はじめに」）を参照してください。



注意: [ワークフロー] タブページで、ユーザーアカウントの管理に用いられる作業フローチャートを見ることができます。詳しくは次章を参照してください。

[契約] ボタン

アプリケーションサービスの詳細画面が表示されている時に画面右に現れる  契約 ボタンで、契約の画面へショートカットできます。クリックすると、選択したアプリケーションサービスの詳細画面が表示されます。このボタンで契約管理の機能にアクセスできます。

3 | チュートリアル

アプリケーションサービスの詳細画面を使って、ユーザーアカウントを能率的に管理することが可能です。画面内の様々な情報領域で、各アプリケーションサービスの関連情報をAssetCenterデータベースに追加していきます。必要に応じて（新しいサービス、新規ユーザー等）情報量は変化していきます。アプリケーションサービスの画面、契約の画面、従業員の画面、契約の使用状況の画面のそれぞれは、リンクされたテーブルです。これらのテーブルに変更があった場合には、アプリケーションサービスのWebサイトでも変更を加える必要があります。

以下に記述するアクションにより、アプリケーションサービスの管理上よく行われる業務を簡単に実行することができます。また、ウィザードを使って業務を段階的に処理することで、データベースのデータの一貫性を確保します。

デモ用データベースの例の1つである「Intranets.com」は、社内コミュニケーションを管理するアプリケーションサービスです。以下で、「Intranets.com」にいくつかのアクションおよび「ユーザーアカウントの管理」ワークフローを関連付けてみます。



注意: 本章で定義されているワークフローまたはアクションを使用するには、AssetCenterのデータキットをインポートする必要があります。

このアプリケーションサービスの管理

この状況依存アクションを使うと、アプリケーションサービスの管理サイトにアクセスし、ユーザーアカウントを管理することができます（アカウントの作成、権利の変更、プロフィール、削除等）。この為のアドレスは、**【全般】**タブページの**【管理URL】**（SQL名：ASPUserRegURL）フィールドに示されています。接続するには、従業員のテーブル（例：アプリケーションサービスの画面の**【従業員】**タブページ）で**【アクション/このアプリケーションサービスの管理】**状況依存メニューを選択します。Webブラウザがアプリケーションサービスの管理ページを表示します。

アプリケーションサービスに接続

契約の使用状況のテーブル（画面自体またはアプリケーションサービスの**【従業員】**タブページ）で、**【アクション/アプリケーションサービスに接続】**状況依存メニューを選択します。**【全般】**タブページの**【アプリケーションサービスのURL】**（SQL名：ASPConnectionURL）フィールドに入力されている値により、AssetCenterはWebブラウザを起動し、アプリケーションサービス「Intranets.com」の接続ページが表示されます。この画面でID情報を入力してログインします。

技術サポートに電子メールを送信する

【従業員】タブページが選択されていない状態で**【アクション/技術サポートに電子メールを送信する】**状況依存メニューを選択します。**【全般】**タブページの**【技術サポート】**（SQL名：ASPEMail）フィールドの値により、AssetCenterは電子メールクライアントを起動します。新しいメッセージには既にアドレスが入力されているので、後はメッセージを書いて送信するのみです。

ワークフローを使っでのユーザーアカウントの管理

契約の使用状況の画面（アプリケーションサービス）を使って、各ユーザーはアカウントを作成または削除できます。

ユーザーは、契約の使用状況の画面内の**【ユーザーアカウント】**の領域で、**【ログイン】**（SQL名：ASPLogin）フィールドと**【プロフィール】**（SQL名：Profile）フィールドの値を変更することもできます。

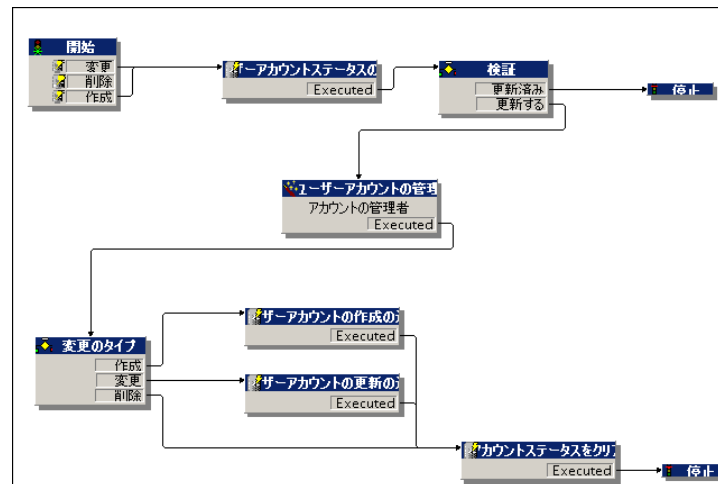
例えば、ユーザー「岡本 俊三」のユーザーアカウントを変更したいとしましょう。

- 1 契約の使用状況の詳細画面で、【ログイン】（SQL名：ASPLLogin）フィールドおよび/または【プロフィール】（SQL名：Profile）フィールドの値を変更します。
 - 2 【変更】ボタンでこの変更を確定します。
- AssetCenterが「ユーザーアカウントの管理」ワークフローを開始します。



注意: この標準ワークフローをお客様の会社のニーズに合わせて変更することができます（ワークフローに関するマニュアルの説明を参照）。

図 3.1. 作業フローチャート



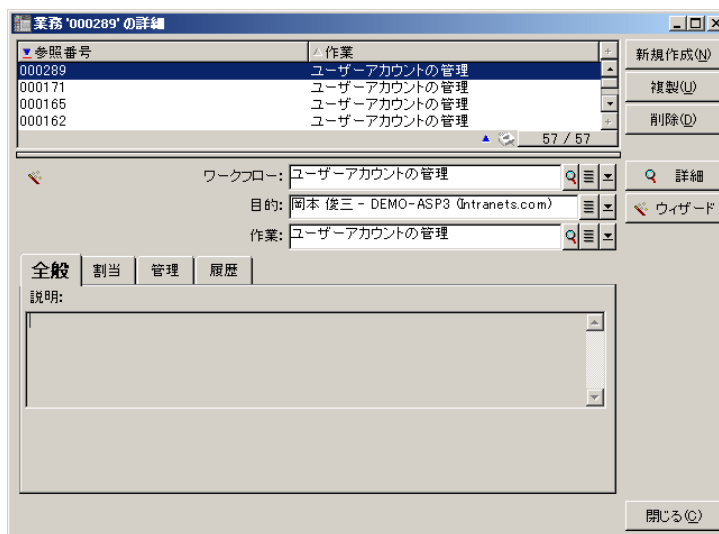
このワークフローによって、アプリケーションサービスで実際に管理されている設定とAssetCenterの情報との一貫性を保つことができます。

責任者による管理

アプリケーションサービスの責任者は、【ツール/ 進行中の業務】メニューを定期的にチェックする義務があります。更新の必要があるものは、リストに表示されます。これにより、AssetCenterのユーザーアカウントの設定とアプリケーションサービスの設定が同一であることを確保できます。まず、ワークフロー

によりアプリケーションサービスの責任者に更新業務が割り当てられます。次に、アプリケーションサービスの責任者は、アプリケーションサービスに接続して業務を実行します。

図 3.2. [ツール / 進行中の業務] メニューの選択

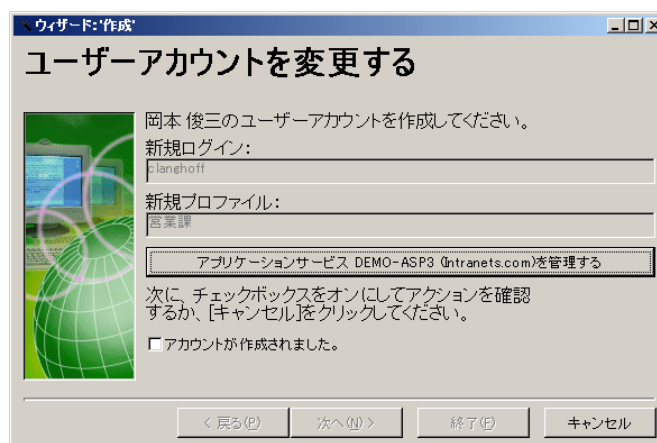


[ウィザード] ボタンをクリックして、選択された業務を実行します。これにより、ユーザー「岡本俊三」のユーザーアカウント情報を「Intranets.com」で変更できます。



注意: ウィザードがアプリケーションサービスの管理サイトで実行する必要のある業務を表示します (例: ユーザーアカウントの作成、変更、削除)。

図 3.3. [アプリケーションサービスを管理する] ボタンの選択

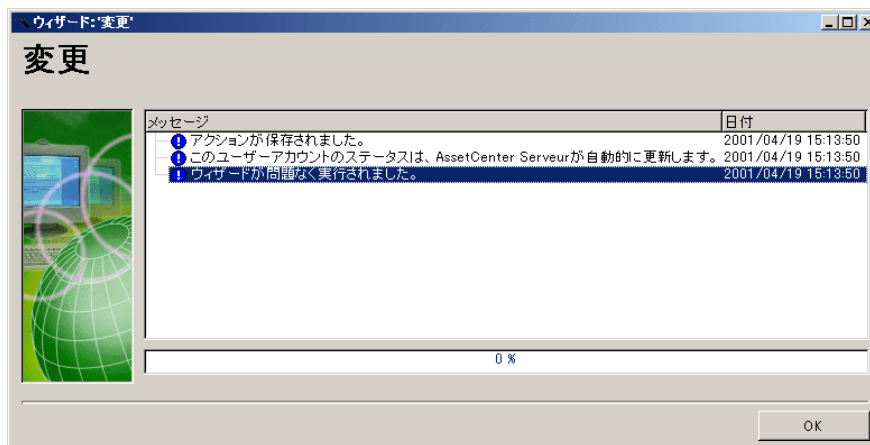


Webブラウザが起動してアプリケーションサービスの管理サイトに接続し、ユーザーアカウントを作成、変更または削除することができます。

一旦更新が実行されたら、管理サイトへの接続を解除して、その更新を確定するために、ウィザードの画面の指示に従ってチェックボックスをオンにします。この例では、[ステータス] (SQL名: seStatus) フィールドの値は [作成する] だったので、「アカウントが作成されました」と表示されます。

最後に、[終了] ボタンをクリックします。

図 3.4. ウィザードの最終報告



[ステータス] (SQL名: seStatus) フィールドの値が [作成する] から [更新済み] に変わります。[詳細] ボタンをクリックして確認します。

【詳細】 ボタンで、契約の使用状況の画面へショートカットできます。この画面へは、アプリケーションサービスの画面の**【従業員】** タブページからもアクセスできます。ここでAssetCenter上でのユーザーアカウントのステータスを確認します。

ワークフローが責任者により実行された更新をユーザーに通知

次に、アプリケーションサービスの管理サイトで行われた変更を通知する電子メールが送信されます。これにより、ユーザーの接続に関する新情報が通知されます。

各ユーザーは、自分の電子メールアドレスでこのようなメッセージを読むことができます。

ユーザーアカウントのステータス

ワークフローの最終段階では、責任者は業務を全て完了したはずですが、**【ステータス】** (SQL名: seStatus) フィールドの値が**【更新済み】** に変わっていることで、AssetCenter上でのユーザーアカウントのステータスがアプリケーションサービス上でのステータスと一致していることを確認できます。



警告: **【更新済み】** が表示され、**【ログイン】** (SQL名: ASPLogin) が空白ではない限り、アプリケーションサービスの**【従業員】** タブページまたは契約の使用状況の詳細画面で、直接ユーザーを削除することはできません。

アカウントをトラッキングし、AssetCenterとアプリケーションサービスのデータが一致することを確認するために、次の更新作業を行います。

- 1 **【ユーザーアカウント】** 領域内の**【ログイン】** (SQL名: ASPLogin) フィールドの値をクリアし、**【変更】** ボタンをクリックします。
- 2 業務リスト (**【ツール/進行中の業務】** メニュー) に更新業務が表示されません。上述したように、責任者はウィザードを使ってこの業務を実行します。
- 3 チェックボックスをオンにして削除を確認し、ウィザードを終了します。これにより、AssetCenterのユーザーアカウントとプロバイダの実際のアカウントのデータが一致していることを確認できます。

アプリケーションサービスの賃貸料計算

このワークフローを使って、各アプリケーションサービスの賃貸料を計算し、ある期間内の経費項目を編集します。アプリケーションサービスは、「ライセンス」タイプの契約なので、契約の画面の【賃貸料】タブページにワークフローでの必須情報が含まれています。

アプリケーションサービスに適用される計算方法を選択するには、【賃貸料】タブページの【賃貸料の比例配分】（SQL名: seProrateRule）フィールドで、【すべての資産に1件あたりの賃貸料を配賦する】を選択します。賃貸料の計算の際に、【1件あたりの賃貸料】（SQL名: mUnitPayments）フィールド値に、【詳細】（SQL名: Description）フィールドのAQLの値がかけられます。

【契約賃貸料に応じて割当】チェックボックスをオンにすると、【予算】（SQL名: Budget）および特定の【コスト負担部門】（SQL名: CostCenter）に割り当てることができます。そうでない場合には、経費項目は自動的に配分されます。賃貸料の計算の際には、再計算および、【主賃貸料】と【受領承認日】のチェックボックス以外の【スケジュール】枠内のフィールドが計算に必ず入れられます。このタブページの詳細については、依存状況ヘルプまたはマニュアルを参考にして下さい。

図 3.5. 例に挙げられたアプリケーションサービスの【賃貸料】タブページ

The screenshot shows the 'Lease' tab page for a contract. The 'Details' section includes 'Contract.Users.User', 'Payment: 0', 'Unit Price: US\$9.99', and 'Market Price: 0'. The 'Schedule' section shows 'Frequency: 月1回', 'Contract Term: 2000/10/09', and 'Payment Method: 前払い'. The 'Tax' section shows 'Tax Rate: 0%'. The 'Proportional Allocation' section is set to 'すべての資産に1件あたりの賃貸料を配賦する'. The 'Contract Users' list at the bottom shows 'Contract.Users.User'.

【詳細】（SQL名: Description）は特別な機能を持つ必須フィールドであり、賃貸料を識別するだけでなく、計算自体の基礎をも築きます。

このフィールドの値はピリオドで区切られたリンク名のセットです。（後記参照）リンクは2つのテーブル間の方向性を指定するので、このセットはAQLパスを構成します。このAQLパスでは、リンクの順序により、あるテーブルから別のテーブルへのパスが決定されます。この例では、契約の賃貸料を計算するので、このパスは常に、【amContractRent】テーブルから始まり、特にこの例では、【amContract】テーブルに向けられている【契約】リンクの一つを含みます。

す。パスが数値フィールドで終わる場合は、その値に1件当りの賃貸料がかけられて賃貸料が求められます。そうでない場合には、ユーザー数などの端末値が計算の基礎となります。

賃貸料の計算に必要な値へのパスを定義するには、テーブル間にどのようなリンクが構成されているかを知る必要があります。詳しくは、AssetCenter Database Administratorを参照してください。

その上、特別なシンタックスを用いることで、「リンク」タイプの任意管理項目の逆リンクを使えます。このリンクがパスで用いられると、原点となるテーブル名の前に、ピリオドの代わりに「-」がにつきます。それゆえ、「fv_test」と名づけられた任意管理項目は次のように表すことができます。

- [...]fv_test.[...] は、テーブル A からテーブル B への「リンク」タイプの任意管理項目です。
- [...]fv_test.A.[...] は、テーブル A からテーブル B への逆リンクです。

下記の図は、パスが逆任意管理項目リンクを示す【詳細】（SQL名:Description）の例です。最後の「fv_surface」リンクがこのリンクの値を指定します。

図 3.6. 異なったアプリケーションサービスの【賃貸料】タブページ

II. 外部アプリケーションの統合 とその他の新機能

4 | 外部アプリケーションの統合とその他の新機能

本章では、AssetCenterと外部アプリケーション統合、およびグラフ統計作成の新機能について記述します。

AssetCenter 3.6 SP3で可能な統合

AssetCenterでは、次のアプリケーションとの統合がサポートされます。

- Peregrine InfraTools Remote Control
- Peregrine InfraTools Desktop Discovery
- Peregrine Knowlix




注意: 統合を行うには、これらのアプリケーションを取得する必要があります。

InfraTools Remote Control

InfraTools Remote Controlを統合すると、資産のテーブルに入力されているコンピュータを遠隔からコントロールすることができます。

次の手順に従って、リモートコントロールを実行します。

- 1 資産のテーブル (amAsset) からコンピュータを選択します。
- 2 次のアクションの1つを実行します。
 - ツールバーの  をクリックする。
注意: [ツール / ツールバーのカスタマイズ] メニューを選択して、このアイコンをあらかじめツールバーに追加しておく必要があります。
 - マウスの右ボタンをクリックして、[リモートコントロール] を状況依存メニューから選択する。
 - [ツール] メニューから [リモートコントロール] を選択する。
 - [Ctrl + R] キーを使う。

このアクションの設定を行うには、まず、[ツール / 管理 / データベースオプション] メニューを選択します。次に、[リモートコントロール] という3つのセクションのデフォルト値を調整します。

InfraTools Remote ControlのAssetCenterとの統合に関する詳細は、マニュアル「InfraTools Remote Control user's guide」の「Integrating InfraTools Remote Control with other applications」の章、「Integrating InfraTools Remote Control with AssetCenter」の節に記述されています。

InfraTools Desktop Discovery


InfraTools Desktop DiscoveryをAssetCenterに統合すると、資産のテーブルに入力されているコンピュータに対してスキャンをかけることが可能です。



注意: この機能を使用するには、お使いのコンピュータとターゲットコンピュータに、InfraTools Remote Controlが適切にインストール、設定されている必要があります。InfraTools Desktop Discoveryのスキャナがインストールされていることも確認して下さい。

次の手順に従ってください。

- 1 資産のテーブル (amAsset) からコンピュータを選択します。
- 2 次のアクションの1つを実行します。

- ツールバーの  をクリックする。
注意： [ツール/ツールバーのカスタマイズ] メニューを選択して、このアイコンをあらかじめツールバーに追加しておく必要があります。
- マウスの右ボタンをクリックして、[リモートスキャンの起動] を状況依存メニューから選択する。
- [ツール] メニューから [リモートスキャンの起動] を選択する。
- [Ctrl + S] キーを使う。

このアクションの設定を行うには、まず、[ツール/管理/データベースオプション] メニューを選択します。次に、[リモートスキャンの起動] という3つのセクションのデフォルト値を調整します。



InfraTools Desktop DiscoveryをAssetCenterに統合するには、InfraTools Desktop DiscoveryをInfraTools Remote Controlに統合する必要があります。InfraTools Remote ControlのAssetCenterとの統合に関する詳細は、マニュアル「InfraTools Remote Control user's guide」の「Integrating your other applications with InfraTools Remote Control」の章、「Integrating InfraTools Desktop Discovery to InfraTools Remote Control」の節に記述されています。

Knowlix

AssetCenterでソフトウェア「KnowlixFrontline」を統合して使えるようになりました。フィールドのテキストを選択して、Knowlixの知識ベースで検索を行えます。

Knowlixのバージョン4.6以上がインストールされると、統合は自動的に行われます。AssetCenterで、[Knowlixを検索] コマンドが実行されるたびに、DDEスクリプトがKnowlixを起動、またはフォアグラウンドに表示します。

Knowlixの知識ベースから情報を獲得するには、次の手順に従ってください。

- 1 情報を獲得するフィールドのテキストを選択します。
- 2 次のアクションの1つを実行します。
 -  をクリックする。
注意： [ツール/ツールバーのカスタマイズ] メニューを選択して、このアイコンをあらかじめツールバーに追加しておく必要があります。
 - [ツール] メニューから [Knowlixを検索] を選択する。
 - [Ctrl + S] キーを使う。
- 3 Knowlixが表示されるのを待ちます。
- 4 Knowlixからの解決法を1つ選択します。
- 5 この解決法をクリップボードから獲得するには、次のアクションの1つを実行します。
 -  をクリックする。

注意： [ツール/ツールバーのカスタマイズ] メニューを選択して、このアイコンをあらかじめツールバーに追加しておく必要があります。

- [ツール]メニューから [Knowlixから解決法を獲得] を選択する。

新機能

AssetCenter 3.6以降から、グラフ統計を作成することが可能になりました。

グラフ統計

フィールドまたは列の統計をグラフを用いて表示するには、次の手順に従います。

- 1 統計を表示したい列またはフィールド内にマウスカーソルを置きます。
- 2 マウスの右ボタンをクリックします。
- 3 状況依存メニューから、[この列に関する統計]または[このフィールドに関する統計]を選択します。
- 4 AssetCenterが新しい画面で統計を表示します。



注意： この統計はAssetCenterにより検出される最初の10件の値だけに限られています。残りの値は「その他の値」に含まれません。

III. このバージョンに関するテクニカルインフォメーション

5 | 関連マニュアルおよび動作環境

関連マニュアル

AssetCenter 3.60 SP3に付属している関連マニュアルは、AssetCenter 3.60のものと同一です。

AssetCenterに付属している全マニュアル一覧については、マニュアル「AssetCenter マニュアルの使い方」を参照して下さい。また、下記のPeregrine Systemsのカスタマーサポート用のWebサイトでもご覧いただけます。

<http://support.peregrine.com>

このWebサイトにアクセスするには、有効なログインとパスワードが必要になります。

マニュアルのコピーが必要な場合は、このWebサイトから.pdfファイルをダウンロードできます。

動作環境

AssetCenter 3.60 SP3をインストールするのに必要なハードウェアおよびソフトウェアの一覧についても、同じく下記のカスタマーサポート用Webサイトでご覧いただけます。

<http://support.peregrine.com>

このWebサイトにアクセスするには、有効なログインとパスワードが必要になります。

6 | 修正された欠陥および新機能の一覧

次の表に、AssetCenter 3.60 SP3、AssetCenter 3.60 SP2、AssetCenter 3.60 SP1およびAssetCenter 3.60で修正された、旧バージョンの欠陥点についての一覧を示します。

この表の見出しは次の通りです。

- ソース：欠陥の原因または機能の追加が記述されています。
- 欠陥番号：この番号を使って、修正された欠陥を簡単に見つけることができます。
- 詳細：欠陥点に関する簡潔な説明
- 解決法：欠陥点の解決法の説明

3.60 SP3バージョン

欠陥番号	問題の詳細	解決法
AM829202114	資産に関連付けられた調整を削除すると、通貨換算の問題が発生する。	修正済み。
AM31595347	受領して「在庫中」になる消耗品のステータスが「予約済」のままである。	修正済み。

欠陥番号	問題の詳細	解決法
AM928185545	資産の同一のフィールド上に関連する複数の「調整」がある場合、調整の1つが削除されると、他の資産のこのフィールドも更新される。	修正済み。
AM919171444	資産および消耗品の納入時に、操作の一貫性が保持されない。	修正済み。
AM917162051	在庫への再調達を自動依頼すると、受領された消耗品は「予約済」と見なされる。	修正済み。
AM62912244	調整の納入時にエラーメッセージが発生する。	修正済み。
AM315194245	調整用経費項目の作成上の問題	修正済み。調整が注文中の資産に関連付けられると、調整用の経費項目は、受領伝票の作成時ではなく資産の納入時に作成される。
AM1019184239	数ページに渡る書式を実行または選択すると、一般保護エラーが発生する。	修正済み。
AM1012154257	Sybase SQL Serverでは、作業指示に関連付けられた資産の納入後、作成された資産に作業指示が割り当てられない。	修正済み。
AM1116153155	外部テーブルにアクセスすると、無用なアクセス制限が発生する。	修正済み。
AM71716054	Sybase 11.9.2.ではアポストロフ（'）の使用により問題が発生する。この問題は階層型テーブルでのみ発生する。	修正済み。
AM1211154116	発注項目に関連付けられていない納入項目が、複数の依頼に表示される。	修正済み。
AM92615843	初期経費を含む作業指示の作成時に、一般保護エラーが発生する。	修正済み。
AM6817943	Basicスクリプトで、現在のユーザ（CurrentUser）に関連する値の参照時に問題が発生する。値が評価されない。	修正済み。
AM1129152535	発注に関連付けられていない依頼のトラッキングタブ内で、請求項目が間違っって表示される。	修正済み。

欠陥番号	問題の詳細	解決法
AM10182932	特記事項タイプのフィールド（履歴付き）をAPIで更新すると、問題が発生する。	修正済み。

バージョン 3.60 SP2

欠陥番号	問題の詳細	解決法
RFP41391312	「リース契約」タイプのファイナンス契約に関連する購入依頼および発注書のトラッキング	<p>[リース明細]タイプの契約で、[購入]タブページが使用可能になりました。</p> <p>[購入]タブページは、以下の2つのサブタブページを含みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [依頼] このサブタブページは、リース明細に関連する購入依頼を管理するために使用します。 • [発注] このサブタブページは、リース明細に関連する発注書を管理するために使用します。
AM528184219	<p>[デフォルトで作成]（SQL名：seCreateDe）フィールドと[IT]カテゴリの間に互換性がない。</p> <p>例：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 カテゴリが[IT]である製品1を選択します。 2 製品のテーブルで、[デフォルトで作成]（SQL名：seCreateDe）フィールドの値を[なし]と指定します。 3 製品2を作成、または選択して、[構成]タブページをアクティブにします。 4 製品明細の画面（[amProdCompo]リンク）で製品2に製品1を追加します。 	<p>製品1のカテゴリの属性が[標準構成]である場合、[デフォルトで作成]（SQL名：seCreateDe）フィールドの値は、[なし]となります。</p> <p>[標準構成]以外の属性では、[デフォルトで作成]（SQL名：seCreateDe）フィールドの値が[なし]ではない場合に、[なし]を選択しても、[製品]フィールドは空になりません。</p>

その結果、製品1の[デフォルトで作成](SQL名: seCreateDe)フィールドで指定した[なし]を保持できません。[なし]の代わりに、[資産]と入力されます。[なし]を再度選択すると、[製品]フィールドが空になってしまいます。

欠陥番号	問題の詳細	解決法
AM151431	発注書の明細テーブルで、[単価](SQL名: mUnitCost)フィールドの値を変更しても、発注書のテーブルの[税込総額](SQL名: mTotalNet)フィールドと[総原価](SQL名: mTotalCost)フィールドの値が更新されない。	修正済み
AM1115195822、AM3917121	AssetCenterをMS-Window MillenniumおよびMS-Windowsターミナルサーバでインストールする際に問題が発生。	修正済み
AM629133313	AssetCenter 3.51 SP 1からAssetCenter 3.60 sp 1への更新が、ポーランド語バージョンで失敗する。	修正済み
AM52913598	AssetCenter Serverが、ストックから他の製品を含む製品の購入依頼を作成すると、従属製品の依頼項目が作成されない。	修正済み
AM1024122342	購入依頼から作成されなかった見積書から発注書を作成すると、この発注書の明細が空のまま。	修正済み
AM7201198	見積書から作成された発注書のトラッキングタブページで、各明細項目の発注数が、-1である。	修正済み
AM612184346	購入依頼書が複数の項目を含む場合、A.P.I. AmCreatePOsFromAllReqLinesが、購入依頼項目で指定された価格ではなく、サプライヤの製品リストで指定されている価格を用いる。	修正済み。A.P.I. AmCreatePOsFromXXXが、正しい価格を用いる。

欠陥番号	問題の詳細	解決法
AM323151220、 AM4119585	製品の予約の画面で、履歴タブページと任意管理項目タブページがない。	修正済み
AM514151620	購入依頼から発注書が作成されると、発注書のテーブルのプライマリキー「IPOrdId」の履歴保持が機能しない。	修正済み
AM115111858	MS-SQLサーバで、任意管理項目のテーブルのプライマリキー「IFeatId」の履歴保持が機能しない。	修正済み
AM29132617	インポートによりデータが作成されると、プライマリキーの履歴保持が機能しない。	修正済み
AM5291531、 AM71855815	資産テーブルで、[親製品] フィールドのために作成された履歴項目が、[新しい値]に、親製品の名前ではなく、資産の名前を含む。部門と従業員のテーブルの[部門]フィールドでも同じ問題が発生。	修正済み
AM41216486	従業員グループのテーブルで、「グループのメンバー」複数リンクの履歴保持が機能しない。	修正済み
AM52161222	レコードに関連付けられた任意管理項目の変更によりワークフローがトリガされ、そのワークフローが失敗したとしても、変更がデータベースで保存される。	修正済み
AM71817410	スクリプトが2つの任意管理項目を同時に更新し (AmSetFieldStrValue()へ2つコールに対して、AmUpdateRecord()に1つコール)、そのうち2つが[デフォルトで表示]モードで、もう1つが欠けていると、最初の任意管理項目が更新されない。	修正済み
AM5318116、 AM526104228、 RFP919103652	ワークフロー、または妥当性スクリプトでErr.Raise()をコールすると、エラーメッセージが理解不可能。	修正済み。メッセージが分かりやすい。

欠陥番号	問題の詳細	解決法
AM813122154	日付フィールドのデフォルト値が、特記事項のみを含む。デフォルト値は0（この値は、1899年12月30日に対応する）。	修正済み
AM111161751	ラインの色を定義するためにリストに追加された特殊フィールドの評価エラー。	修正済み

3.60 SP1バージョン

欠陥番号	詳細	解決法
AM32718163	特記事項の履歴の保持に関する問題	修正済み。
AM21317024	トランザクションが長いと、「amLoginSlot」テーブルでデッドロック発生。	修正済み。
AM26111242	詳細画面のリンクリストで、リンクテーブルの全てのレコードが表示されない。[+]ボタンが淡色。	修正済み。
AM21310452	賃貸料の計算の際に、AssetCenter Serverが急停止する。	修正済み。
AM122016335	AM21317024と同様	修正済み。
AM51819216	【再依頼】ボタンが正常に機能しない。	修正済み。
AM221154454	ワークフローのスク립トが、コンテキスト外で考慮される。	修正済み。
AM119154852	スマートデータベースアップグレード：3.02バージョンから、間違った相違ファイルのデータベースへのマイグレーションの際に、一般保護エラーが発生。	修正済み。
AM113142114	統計：フィルタが正常に機能しない場合がある。	修正済み。
AM117134614	Microsoft SQL Serverで「SELECT DISTINCT」を用いると、一般的な保護工	修正済み。

欠陥番号	詳細	解決法
	ラーが発生（ 【履歴】 タブページ）。	
AM11711719	1つ目のクエリーを作成する際に（ 【ツール/クエリー】 タブページ）、一般的な保護エラーが発生。	修正済み。
AM32911537	スマートデータベースアップグレード：Oracleへの接続が1つだけ「amdb.ini」ファイルで宣言されると、一般保護エラーが発生。	修正済み。
AM411184949	InfraCenter for Workgroupsでレポートが2つ欠けている。	修正済み。
AM226124659	【資産】 （SQL名：amAsset）テーブルで、 【詳細のみ】 モードに切り替える際に、一般保護エラーが発生。	修正済み。

バージョン 3.60

欠陥番号	詳細	解決法
AM828154758	インポートにより変更された任意項目を含むレコードの [dtLastModif] フィールドの動作。	修正済み。
AM122016335	リストのリフレッシュ時の問題	修正済み。
AM122113597	バージョン2.52から3.51への標準インポート時に生ずる一般保護エラー。	修正済み。
AM121515415	日賃貸料の場合、AssetCenter Serverが経費項目を一日おきにしか作成しない。	修正済み。
AM1211162211	親製品のない調整の納入時にエラーが発生しない。	修正済み。
AM125162448	製品なしの発注書の問題。	修正済み。

欠陥番号	詳細	解決法
AM121116741	注文項目の画面のリストに [AcquCntrlId] フィールドを追加することができない。	修正済み。
AM19181959	クエリ でフルネームが128字で切り捨てられる。	修正済み。
AM1010111930	任意管理項目の参照番号から始まる説明の文字列の解釈エラー。	修正済み。
AM101016030	[Do not process the ESC key in a field] オプションが機能しない。	修正済み。
AM1018173211	インポート等の機能で、一番最後に使われたフォルダをAssetCenterが記憶できない。	修正済み。
AM82510540	スクリプトでの任意管理項目値の定義時に問題発生。	修正済み。
AM1018175632	MS SQL 7.0で、統合した任意管理項目が無効なクエリを作成する	修正済み。
AM22315256	MS SQL 7.0で、フィールド値の履歴が正しく機能しない。	修正済み。
AM824131637	AssetCenter API使用時に、計算フィールドを出力できない。	修正済み。
AM112164918	資産および従属資産の作成時に複製選択の問題が発生。	修正済み。
AM72521919	発注書の複製時に調整項目が追加される。	修正済み。
NT00002CCA	外貨および為替レートのロード設定。	実行可能。
RFP929144614	資産テーブルの [取得] タブページにコスト負担部門を追加。	実行可能。
RFP10201067	意思決定ツリーに多数の項目が含まれている場合のパフォーマンスの向上。	実行可能。
RFP112094047	並べ替え時に空白のフィールドが含まれる。	実行可能。

欠陥番号	詳細	解決法
AM10995416	スマートデータベースアップグレードの際にAQLクエリーをインポートできない。	修正済み。
AM109145714	スマートデータベースアップグレードの際に臨時ユーザーのプロファイルがアップグレードされない。	修正済み。
AM101895510	NTセキュリティを用いてデータベースに接続した場合にCrystal Reportsのレポートを印刷できない。	修正済み。
AM1011183155	AssetCenter Serverがサービスモードで実行されている時にVIM メールを使用すると問題が発生する。	修正済み。
AM1020103319	ビューのドロップダウンリストで一番最後に選択されたビューが、自動的にリストの最初に配置されない。	修正済み。
AM912103429	データのサーバーへの転送時に、不適切に切り捨てらるデータがある。	修正済み。
AM91175654	リンクの追加時に間違った削除確認のメッセージが出る。	修正済み。
AM920182536	APIで [amRevCryptPassword] 機能へのアクセスが不可能。	修正済み。
AM926103716	Microsoft Accessが任意管理項目の多すぎるテーブルにアクセスできない。	修正済み。
AM92518371 (SD049684)	スマートデータベースアップグレード：マイグレーション後、エージェントが間違ったテーブルに適用される。	修正済み。
AM925113836	AssetCenterのDLLでのメモリーリークの問題。	マルチスレッドアクセスでDLLに問題なし。

7 | アップグレード時の注意事項

AssetCenter 2.52以降のバージョンであれば、AssetCenter 3.60 SP3にアップグレードをすることができます。



注意: 前もって、マニュアル「インストールおよびアップグレードガイド」を参照してください。

AssetCenter 3.xからのアップグレード

次に示す作業は、AssetCenter バージョン3.xのすべてのバージョンからアップグレードする場合に必要です。

バージョン3.xからアップデートする場合は、スマートデータベースアップグレード機能を使って簡単にアップグレードできます。

アップグレードをするには、次の2つの作業を行います。



注意: アップグレードを行う前に、必ずデータベースのバックアップ（ダンプ）を作成してください。

- AssetCenterの実行可能ファイルをアップグレードする：AssetCenter 3.60 SP3のインストールCDをコンピュータのドライブ挿入し、表示される画面の指示に従ってください。この操作に関する詳細は、マニュアル「インストールおよびアップグレードガイド」の第4章「AssetCenterのアップグレード」を参照してください。
- データベースを移行する：スマートデータベースアップグレードを使ってこの処理を行うことができます。詳しくは、「AssetCenter 3.60 付録」を参照してください。

AssetCenter バージョン2.52からのアップグレード

バージョン2.52からのアップグレードは、AssetCenter 3.60 SP3により直接サポートされていません。



警告: バージョン2.52からアップグレードを行われる場合は、Peregrine Systemsのカスタマーサポートまでお問い合わせください。

IV. 追加されたフィールドと AssetCenter 3.6での更新

8 | 追加されたフィールドと AssetCenter 3.6データベース構造での更新

AssetCenter 3.6 SP3の「dbstruct.chm」ファイルに、AssetCenter 3.51のデータベース記述ファイルが含まれています。このファイルは、追加されたフィールドの記述、またはAssetCenter 3.6 SP3での更新を含みません。

追加されたリスト、またはバージョン3.51からの更新を得るには、AssetCenterのインストール先フォルダの「infos」サブフォルダにある「diff351.txt」ファイルを開いてください。（例C:\Program Files\Peregrine\AssetCenter\infos\diff351.txt）

「diff351.txt」ファイルは、「infos」フォルダにある他のtxtファイルと同様に、区切り文字で区切られたファイルです。このファイルを読み込むには、Microsoft Excelのような、スプレッドシートタイプのアプリケーションを使用することをお奨めします。

1

付録

お問い合わせ先

本リリースに関するご質問については、Peregrine Systems のカスタマーサービス用Webサイトで承っております。アドレス：<http://support.peregrine.com>。

このWebサイトにアクセスするには、有効なログインとパスワードが必要になります。

また、下記の最寄りのカスタマーサポートまでお問い合わせされても結構です。

北米、南米、アジア / 太平洋諸国

電話番号：+(1) (800) 960 9998 (米国内でのみ無料ダイヤル)

+(1) (858) 794 7402

ファックス：+(1) (858) 794 6028

電子メール：support@peregrine.com

本社：Peregrine Systems, Inc.

Attn: Customer Support

3611 Valley Centre Drive

San Diego, CA 92130

ヨーロッパ、アフリカ

電話番号：(0) (800) 834 770 (英国内でのみ無料ダイヤル)

+(44) (0) (02) 8334-5844

ファックス : +(44) (0) (02) 8334-5890
電子メール : uksupport@peregrine.com

